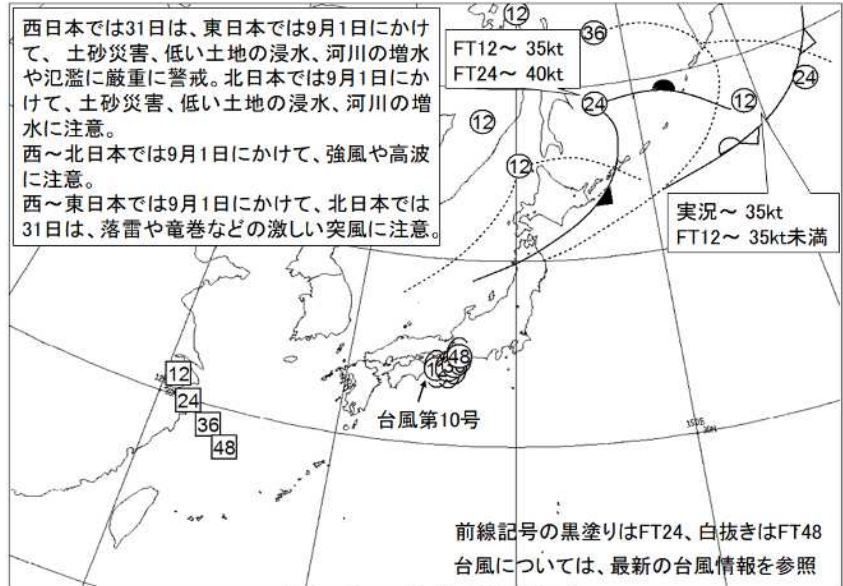


1. 実況上の着目点

- ① 台風第10号は、西日本を東進。西日本や東日本太平洋側では台風本体や周辺の下層暖湿気の影響で、雷を伴い激しい雨を解析。
- ② 500hPa 5820mのトラフに対応して千島近海を東北東へ進む低気圧から前線が北日本にのびている。近傍で雷を検知、強い雨を解析。
- ③ 沿海州付近を東南東進する500hPa 5640m付近で -12°C 以下の寒気を伴うトラフと、この前面に流れ込む台風周辺の下層暖湿気の影響で、日本海では活発に発雷し、非常に激しい雨を解析、メソサイクロンを検出。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、9月1日にかけて西日本から東海地方をゆっくり東進。台風本体や周辺の下層暖湿気の影響で、雷を伴った非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。台風の動きが遅いため、総雨量が多くなるおそれがある。西日本では31日は、東日本では9月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。西～東日本では9月1日にかけて、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。近畿地方では引き続き31日午前中にかけて、東海地方では引き続き9月1日午前中にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害の危険度が急激に高まる可能性がある。また、台風周辺では、強い風が吹き、海上はうねりを伴い波が高くなり、しける所がある。強風や高波に注意。
- ② 1項②の前線を伴う低気圧は千島の東へ進む。また、1項③のトラフは31日は北日本へ、9月1日にかけてカムチャツカ半島に進む。対応して31日朝までに日本海北部に発生する低気圧が発達しながらオホーツク海に進み、前線が北日本を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、北日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、前線や低気圧周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。北日本では、9月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波に注意し、31日は落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。台風の予想については不確実性が大きい。最新の台風情報を参照。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(06時からの24時間)：東海300、近畿200、関東甲信150、北海道・四国120、伊豆諸島・北陸100mm。②波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島・東海・近畿4、東北・関東・中国・四国・九州北部3m。③高潮(明日まで)：西～東日本で注意報基準を超過する所があり、北陸西部で警報基準に近づく所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第10号に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。